

1 単元名 かわってきた人々の暮らし ～のこしたい つたえたい 麒麟獅子舞～

2 授業構成

(1) 単元の価値と魅力

本単元は、小学校学習指導要領第 3 学年及び第 4 学年において

- | |
|---|
| (5) 地域の人々の生活について、次のことを見学、調査したり、年表にまとめたりして調べ、人々の変化や人々の願い、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を考えるようにする。
イ 地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事 |
|---|

に位置づけられている。

本単元では、古くから伝わる文化財や年中行事を取り上げ、これらの内容やいわれ、地域の人々がそれらを保存し継承するための取り組みなどを具体的に調べていく。その中で、地域の人々が受け継いできたということを留意することが大切である。具体的には、民俗芸能などの文化財が地域の歴史を伝えると共に、そこにはそれらの保存に取り組んでいる人々の努力が見られることや、地域の人々が楽しみにしている祭りなどの年中行事には、地域の生産活動や町の発展、地域を支える一員としてのまとまりを願う気持ちや保存・継承するための工夫や努力があることを考えることができるようにすることが必要である。

本校の児童は、鳥取県東部を中心として広域で様々な地域から通学しており、自然環境や生活環境に多少の違いが生じる。そのため、地域に対するイメージに違いがあり共通のふるさと感を持ちにくい実態がある。児童が思考を深め学び合うためには、調べる対象を学校区から鳥取市全体に広げ、児童が見慣れている文化財や年中行事を学習材として取り上げることが大切である。そして、文化財や年中行事のいわれや人々の思いについて探求することで得た社会的な見方や考え方を使い、他の事象についても考えていく中で、グローバルな視点とローカルの視点を併せ持ち、地域の問題を捉え再生の方向を探るグローバルな視点で持続可能な社会を考えていきたい。

そこで、学習材の選定にあたっては、児童自身が参加した体験や見たことがあるといった生活体験から学習材とのつながりを想起することができるものが望ましいと考える。そして、単元の構成では、学習を通して既存の社会認識と新しい知識や体験から新しい社会的な見方や考え方を獲得していき、それらを活用して、他の文化財や年中行事の関連性や共通性を見出すことができるようにする。関連性や共通性を見出す中で、新たな社会的な見方や考え方を根拠にしながら、児童の感覚で様々な視点から考えることができるといったことに留意していくことも大切である。以上のことを考慮した学習を進めるために、本単元の学習材として、鳥取市を代表する無形文化財「麒麟獅子舞」を取り上げていくことにした。

鳥取県の麒麟獅子舞は、そのほとんどが鳥取県の東部（因幡地方）に集中しており、本年度は 173 ヲ所で行われている。その多くが春と秋の地元の神社の祭礼において、神前で本舞を奉納するほか、氏子の家々を門つけしてまわり、「獅子に頭を噛んでもらうと、子どもは賢くなり、大人は一年間無病息災だ。」と昔からのいい伝えがある。本校の児童も、自分たちの住む地域で麒麟獅子舞を見たり幼い頃に獅子に頭を噛んでもらったりしたことがあり生活体験と関わりのある共通行事と言える。「麒麟獅子舞」

の起源は、鳥取藩主池田光仲が鳥取の樗谿に日光東照宮の御神霊を祀る鳥取東照宮（現在の樗谿神社）を建立した際の祭礼の行列に、徳川家康の化身として麒麟獅子を登場させた権現祭が麒麟獅子舞であると言われている。その後、江戸時代後半から庶民の間で広がり、350年たった現在でもなお麒麟獅子舞の踊り手は、青年団や保存会によって代々受け継がれている。麒麟獅子舞は、鳥取東照宮（樗谿神社）の権現祭から始まり、庶民の行事として各地域の神社に広まる過程で、麒麟獅子の頭や蚊帳、猩猩の面、舞いの間や動きなどが地域ごとに独自の工夫がなされ、それぞれの地域で違いがあるのも特徴である。したがって、児童の住んでいる地域の独自性を感じそれぞれで比較することができるといったおもしろさがある。さらに、麒麟獅子は、「因幡の傘踊り」と並び、鳥取市のシンボルとして商店街の歩道にペナントや麒麟獅子の形をしたベンチがいくつも設置されたり、鳥取駅から観光地を結ぶ市内巡回バスの名に、「麒麟獅子」の名前をつけて運行したりされている。このように、鳥取市のみならず鳥取県の行政も地域の活性化に向けて、積極的に関わっている実態がある。

この学習を通して、年中行事の一参加者として麒麟獅子舞を見ていた児童が、この舞が人々の営みや努力によって守られてきたことや継承する上で課題に直面している実態があることを知り、そこから麒麟獅子舞の価値を認めながら、児童一人一人が次の担い手として次世代に受け継ぐために何が必要なのか考えさせたい。さらに、副読本に載っている鳥取市にある他の行事を児童が選択し調べまとめる活動を取り入れることで、麒麟獅子舞で得た文化財や年中行事に対する見方や考え方を使いながら、どの行事でも地域の生産活動やまちの発展、人々のまとまりなどへの願いがこめられていることや麒麟獅子舞だけでなく、共通の課題があることに気づかせたい。そして、児童一人一人に、地域社会に対する誇りと愛情を育て、受け継ぐためには何ができるか考えさせていきたい。

(2) 持続可能な社会に対する思考を深め、学び合う授業づくり

前単元「古い道具と昔の暮らし」の学習では、日常生活に密着した道具として洗濯板を取り上げ、道具を観察した後、実際にお年寄りの方に使い方を教えてもらいながら洗濯体験を行った。その中で、「昔の道具は今の道具に比べると大変だけど、洗濯物がきれいになった。」「洗濯板は、昔の道具に比べて洗濯するのに時間がかかって大変」とその時のお年寄りが教えてくれた。また、「子どもの汚れを洗っていると、この子が今日一日どんなことをしていたのか感じるができる。汚れを通して、我が子とお話しているような気持ちになるのよ。」とも教えてくれた。子どもたちからは、「また、家でもやりたい。」という意見が多くあった。子どもたちは、昔の人々の苦労を感じつつ、知恵を学び、そのよさについて実体験を通して気づいていた。さらに、昔の道具はいつ、だれが、どのようにして使っていたか、どのような工夫をしていたか調べることで、その時代ごとの生活の様子について学んできた。そして、おじいちゃん・おばあちゃんのころ、お父さん・お母さんのころでは、道具はどのように変化してきたのか過去と現在とのつながりを年表にまとめる活動や洗濯板が、なぜ今も使われているのか考える中で「時間的な広がり」を意識する学習を行ってきた。その中で、子どもたちは、「これは、昔のもの……。古いもの……。」という理解はできても、「何年ぐらい昔……、今から何年前……」と時間的なスケールになると、イメージしにくいという実態も把握することができた。

単元の導入では、麒麟獅子舞が360年も長い間続いてきたことや現在も形を変えず因幡地域160ヵ所以上に広まったことという凄さを知り、麒麟獅子舞を見たり触れたりした経験をもとにしながら、麒麟獅子舞をもっと知るために学習問題を作成した。調べる活動では、麒麟獅子舞のいわれや麒麟獅子の踊り、麒麟獅子を大切に思う思いについて、本やインターネットで調べたり、下味野麒麟獅子保存会の方や鳥取県教育委員会文化財課の方に話を聞いたりした。その活動の中で、保存会の方に舞を見せてもら

ったり実際に麒麟獅子をかぶって舞の型を教え手もらったりした。実際に見たり体験したりすることで、麒麟獅子舞の素晴らしさや守り受け継いでいく方々の思いや願いを感じることができた。

本時では、麒麟獅子舞が、地域の発展や人々のまとまりなどに役立っていることを知り、麒麟獅子舞のことを他地域へ伝える内容を考えることができるようにしたい。そのために、麒麟獅子舞が続いてきたのは、実際に踊る人や保存会の方々など直接麒麟獅子に関わった方々に目が行きがちだが、舞いを楽しみにしている地域の方々や次の後継者である子どもたちの関わりも大切である。そこで、麒麟獅子舞を奉納している場面の動画や祭りの様子の写真から、祭りを楽しみにしている地域の方々も大切な役割を担っていることを意識させていく。その際、麒麟獅子舞を行っている人たちや踊りを見ている人たちの気持ちを考えさせることで、地域の生産活動や街の発展、人々のまとまりなどに役立っていること確認していく。さらに、麒麟獅子舞のこれからを考えさせることで、「自分たちが伝えたい。」そのため何を伝えるか考えさせていく。伝える内容を考える際には、今までの学習で学んだり体験したりしたことをもとにしなが、「麒麟獅子舞は、長い歴史のもつものである。」、「因幡地域の固有のものであることや地域の方々の多くが楽しみにしており、地域を元気にしているものである。」、「今までたくさんの方々によって、麒麟獅子の素晴らしさは受け継がれているものである。」など、麒麟獅子舞のよさを他の人に伝えていきたいという気持ちを大切にしたい。そうすることで、この単元がねらいとする地域社会に対する誇りと愛情を育てていきたい。学習の最後では、鳥取市にはほかにも文化財や年中行事があることを意識させ、いわれや様子について調べていくことを伝え、次時の学習の意欲へつなげていきたい。

なお、授業で児童が資料などをもとにしなが、資料の読み取りの場面・見つけたことを伝え合う場面では、2人組による話し合い活動を意図的に取り入れて行くようにする。そこで、相手と自分の主張や思いが違う時に、自分の考えを主張するばかりではなく、相手の主張や思いを理解し、相手の意見を認めたり時には折り合いをつけたりして、よりよい解決策を考えていく活動を十分保障していく。そこで、児童が他者と関わりその時に児童の思考を効率よく把握し学習に生かしたり個別に支援したりするために、児童用タブレットパソコンに配布しておき、2人組で相談して考えたり、その理由を書いたりすることができる場を設定していく。本時では、資料を根拠にして考えさせるために、活用した資料や写真をタブレットパソコンに取り込んでおき、自由に見ることができるようにしておく。資料の見方については個人差があるので、その際、教師は、児童の実態を教師用タブレットで確認しながら、児童の実態を把握したり児童の参考になる意見を電子黒板に表示したり、助言を行ったりしていくようにする。

そうすることで、一つの社会的事象に目を向け、その事象の価値を共有すると共に抱える課題に対する関わる人々の営み（工夫・努力）を理解しながら持続可能な社会に対する思考を深め、学び合う授業になるのではないかと考え、実践を行っていく。

3 単元目標

地域の人々が受け継いできた麒麟獅子舞・因幡の傘踊りなどの年中行事や文化財の様子や、それらには地域の生産活動やまちの発展、人々のまとまりなどへの願いがこめられていることを理解し、地域社会に対する誇りと愛情をもととする。麒麟獅子舞やわらべ館などを見学・調査したり、保存・継承に携わる人から話を聞いたりして、年中行事や文化財に込められた人々の願いや保存・継承するための工夫や努力について思考・判断したことを適切に表現する。

4 学習計画（全10時間）

第1次 「麒麟獅子舞をもう一度見直してみよう」

第1時 自分たちの体験や資料を基にしながらか麒麟獅子舞について関心を持ち、360年も続き、今もなお沢山の地域で行われていることに着目して、学習課題をつくる。

第2・3時 インターネットや郷土史料を活用して、麒麟獅子舞の由来や祭りの様子・どのように受け継がれているか調べる。

第2次 「麒麟獅子舞を残し伝えようとする方々の願いや思いを知ろう。」

第1・2時 麒麟獅子舞保存会の方や県教委文化財課の方に話を聞き、保存活動の取り組みや麒麟獅子舞に対する思いや願い、受け継いでいく上での問題点について知る。

第3時 麒麟獅子舞が、地域の発展や人々のまとまりなどに役立っていることを知り、鳥取市の誇りとして他地域へ伝える内容を考えることができる。（本時）

第3次 「鳥取市の年中行事や文化財について調べてみよう。」

第1時 グループごとに鳥取市の年中行事や文化財を選び、副読本やパンフレット・しおりなどを活用して活動の様子や伝統を受け継ぐ人々の思いや願いについてまとめる。

第2時 グループでまとめた内容を発表して、麒麟獅子舞の学習と比較しながら共通点を考える。

第4次 「地域のために自分ができることを考えよう。」

第1・2時 地域に伝わる年中行事や文化財に込められた思いや願いを短い言葉にまとめたカルタづくりや遊びを通して、自分たちがこれからできることについて話し合う。

5 本時の学習について

（1）本時の目標

麒麟獅子舞が、地域の発展や人々のまとまりなどに役立っていることを知り、麒麟獅子舞のことを他地域へ伝える内容を考えることができる。

（2）学習の準備

麒麟獅子舞の写真、動画・タブレットパソコン・保存会の方のアンケート

（3）本時の展開（○教師の意図 ◆個の探究への支援 ◇協同的な学びへの支援 ●評価）

学 習 活 動	教師の意図と支援および評価
1. 前時の学習を振り返り、麒麟獅子舞が360年も続くためには、どのような人が関わってきたのか考える。 ・池田光仲（始めた人） ・麒麟獅子舞保存会の人 ・麒麟獅子を踊っている人 ・祭りに参加する人 ・麒麟獅子舞のことを伝える人 ・麒麟獅子をつくっている人 ・子どもたち（自分たち）	○麒麟獅子舞が続いてきたのは、実際に踊る人や保存会の方だけでなく、祭りの参加者や祭りを楽しみにしている地域の方々も大切なことに気づかせたい。 ◆麒麟獅子舞に直接関わる人以外にたくさんの人が関わっていることに気づかせるために、麒麟獅子舞を奉納している場面の動画を視聴しながら、考えさせるようにする。
2. 麒麟獅子舞に関わっている人々のどのような思いや願いがあるのか考え、発表する。	○麒麟獅子舞は、地域の発展や人々のまとまりなどの役割があることを知り、これからの麒麟獅子舞について自分たちが伝えていく必要があることに気づかせたい。

<p>○麒麟獅子舞をしている人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなに見てもらいたい。 ・みんなが元気になってほしい。 <p>○麒麟獅子舞を見ている人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康になりたい。 ・賢くなりたい。 ・自分もしてみたい。 ・大きくなったら、自分も踊りたい ・懐かしいなあ 	<p>◆関わりのある人たちにそれぞれ役割と意思について考えさせるために、麒麟獅子舞の写真の人物を隠しながらい場合について想像させて役割を確認する。</p> <p>◆自分たちが受け継いでいくことの大切さに気づかせるために、麒麟獅子舞の様子を掲示しながら、賀露の麒麟獅子舞の氏子の方に書いてもらったアンケートを紹介したり、麒麟獅子舞の体験をした時の感想を振り返らせたりする。</p>
<p>麒麟獅子舞をこれからも続けていくために、伝えたいことを考えよう</p>	
<p>3. これからも麒麟獅子舞について予想し、を鳥取市の誇りとして続けていくためには、どのようなことを伝えていくことが大切か考える。</p> <p>○2人組で友だちと伝える内容を考える。</p> <p>○麒麟獅子舞について伝えたい内容をデジタルワークシートに書き発表する。</p> <p>4. 本時の学習の振り返りをノートにまとめ、次時の学習の見通しをもつ。</p>	<p>○これからも麒麟獅子舞を伝え続けていくために、今までの学習や資料をもとにしながら、麒麟獅子舞のいわれや保存をする人の思いや願い、地域の人々のまとまりなど、麒麟獅子舞の凄さや良さを伝える内容を考えさせたい。</p> <p>◇2人組で話し合い伝えたい内容と理由をタブレットパソコンに書いたり発表させたりしながら、教師は児童の意見をグループに分けて提示するようにする。</p> <p>◆資料を根拠にして考えさせるために、活用した資料や写真をタブレットパソコンに取り込んでおき、自由に見ることができるようしておく。</p> <p>◇教師は、児童の話し合いの様子をタブレットパソコンの一覧画面で実態を把握し、児童の参考になる意見を電子黒板に表示したり、今での学習を想起させたりしながら助言等の支援を行っていく。</p> <p>●話し合ったことや考えたことをもとにしながら、麒麟獅子舞のことを他地域へ伝える内容を考えることができる。(ノート・発言)</p> <p>○資料を見ることで、鳥取市にはほかにも文化財や年中行事があることを意識させ、いわれや様子について調べていくことを伝え、次時の学習の意欲へつなげる。</p>

(4) 参考文献

因幡の獅子舞研究 野津 龍 著

東書教育シリーズ 新編副読本作成の手引き

小学校社会 第3・4学年用

東京書籍

社会科「知識の構造図」 北 俊夫 編著

社会科教科書の活用法 北 俊夫 編著

6 知識の構造図

